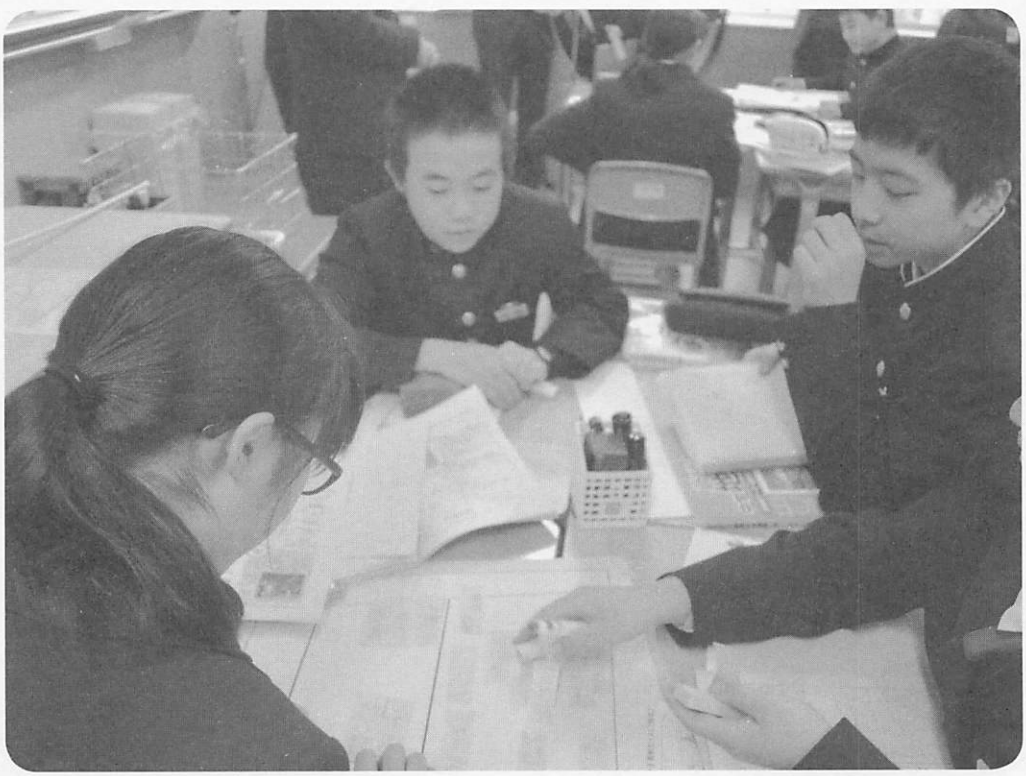
社会科

教科領域研究テーマ
【よりよい社会や自分の姿を思い描く力の育成】



社会科

よりよい社会や自分の姿を思い描く力の育成

実　践　者　江角　紀行，西田　剛志，宮本　真人
愛媛大学研究パートナー　井上　昌善，鷲原　　進，川岡　　勉
川瀬久美子，張　　貴民

第１章　はじめに

今の子どもたちやこれから誕生する子どもたちが成人して社会で活躍する頃には生産年齢人口の減少やグローバル化の進展などにより社会構造や雇用環境が急速に変化しており，我が国は厳しい挑戦の時代を迎えていると予想される。そのような中，学校教育には子どもたちが様々な変化に積極的に向き合い，他者と協働して課題を解決していくなど，一人一人が持続可能な社会の担い手となるために必要な資質・能力を育むことが求められている。

そこで，私たちは，持続可能な社会を支える資質・能力を「よりよい自分や社会の姿を思い描く力」と捉え，その育成のために下の三点に重点を置き，実践を進めている。その際，各教科で取り組んでいる「論理的な思考力･表現力」を発揮したり，対話的な学びによる思考を広げ深め合ったりする活動を学習活動に位置付けたい。なお，社会科では「論理的に思考し表現する力」を「事象や問題の背景を熟考（時間的・空間的な視野を持って，多面的・多角的に考察すること）して自分の意見や考えを持ち，その根拠を明確に表現する力」とした。

(Ⅰ)　問題解決的な学習の充実 (Ⅱ)　「きょうどう」の精神を発揮する学び合いの充実 (Ⅲ)　資質・能力が育つ評価の工夫	⇔	論理的な 思考力・ 表現力

第２章　研究の実際

研究（その１）

グローバルな視野で多面的・多角的に社会的事象を捉え，自分ごととして行動する力の育成

ー地理的分野 世界の諸地域「アジア州」の実践よりー

（実践者）江角　紀行

１　研究テーマ設定の理由

地球規模で進行する環境問題や不安定な世界情勢，日本の少子高齢化やそれに伴う社会保障費の増大等，現代社会は急速に変化している。このような複雑で変化の激しい社会に生きる私たちは社会的存在として，固有の組織のこれまでの在り方を前提にどのように生きるかだけではなく，様々な情報やできごとを主体的に判断しながら，自分を社会の中でどのように位置付け，社会をどう描くかを考える中で，他者と一緒に課題を解決していく力が必要となる。

このような状況の中で，生徒はよりよい未来や自分の姿を構想し，その実現に向けて国内のみならず地球規模で社会的事象を捉えたり，物事を多面的・多角的に吟味して見定めたりして，自分ごととして行動することが重要である。また，課題解決に向けては，他者に自分の考えを根拠とともに論理的に説明しながら，対話や議論を通じて相手の考えを理解したり自分の考えを広げ

たりして，多様な人と協働できることが大切である。そして，これらの資質･能力を養うことが，「持続可能な社会」の担い手を育成する上で不可欠と考え，本研究テーマを設定した。

2　研究の内容及び方法

本年次は，次の「研究の内容及び方法」により，研究テーマの具現化を図ることとした。

(Ⅰ) 問題解決的な学習の充実
ア 「自分ごと」として社会的事象を捉えさせるための教材開発
イ 持続可能な社会を支える資質・能力を育てる単元構想の工夫

(Ⅱ) 「きょうどう」の精神を発揮する学び合いの充実
ア 深い学びを実現するための「見方・考え方」を働かせた追究方法の工夫
イ 考えを広げ深める学習形態の工夫

(Ⅲ) 資質・能力が育つ評価の工夫
ア 持続可能な社会を支えるために必要な資質・能力の育ちを見取るパフォーマンス課題の工夫

3　研究の実際

(1) **単元名**　世界の諸地域「アジア州」（全８時間）

(2) **「逆向き設計テンプレート」による単元計画**

第１段階：求められている結果
【研究テーマを踏まえた単元目標】 ○アジア州で起こっている人口問題の影響を自分ごととして捉え，よりよい社会を実現するための方策を主体的に考える。
【本質的な問い】 人口の視点から見て，アジア州はどのような特色や問題を持ち，どのような対策が必要な地域なのだろう。
【永続的な理解】 世界最大の人口を抱えるアジア州には人口における多様な事象があり，その事象の背景には自然的条件や社会的条件が関連している。人口増加が進行している国もあれば，少子高齢化が進行している国もあり，中国はその二つの事象が同時に起こっている世界でも珍しい国である。それらの事象の影響や方策を考えることは，少子高齢化が急速に進む国を生きていく私たちにとって，地球規模で起こっている人口の課題を見いだし，「よりよい」社会の実現に向けて行動する上で重要である。
【生徒は次のようなことができるようになる】（知識や技能） ○大観する学習を通して，人口や自然環境，産業などの基礎的・基本的な知識を習得することができる。 ○主題の追究学習や方策を提言する活動から，アジア州の地域的特色を理解することができる。 ○地図帳や統計資料などから地理的事象を読み取り，事象間の関連性に気付いたり，白地図にまとめたりすることができる。
【単元目標に必要な「論理的に思考し表現する力」】 アジア州の人口における事象の多様性に，自然的条件や社会的条件と関連付けながら気付き，見方・考え方を働かせながら特色や問題を考え，分かりやすく説明できる。

第2段階：評価のための証拠	
【パフォーマンス課題】 あなたは，国連が主催する「子どもサミット」に参加するためにニューヨークに来ています。このサミットでは，世界中の各州から集まった子どもにより，毎年決められたテーマについてそれぞれの州で直面する問題が報告されています。今年のテーマは「人口問題」です。みなさんなら，どのような演説をしますか。学習したこと（事実）を根拠として問題を明らかにし，方策を交えたスピーチ原稿を考えなさい。	
【パフォーマンス課題における評価規準】 ○課題解決に向けての方策を提案し，さらに自分ごととして課題を捉え，関わりを持とうとしている。 ○学習した事実を根拠として問題を示し，その問題の方策を多面的に捉えたスピーチ原稿になっている。	【他の根拠】（評価方法等） ○学習問題「なぜ人口密度の低い地域と高い地域があり，どのような問題が起こっているのだろう」についてのワークシートへの記述 ○学習問題「人口構成の変化と人口推移から見て，中国はどのような背景から問題が起こっているのだろう」についてのワークシートへの記述

第3段階：学習計画（全8時間）		
1	アジア州の地域的特色の大観	2時間
2	主題への追究	3時間
3	方策の提言	2時間
4	アジア州の地域的特色のまとめ	1時間

(3) 指導の実際

(I) 問題解決的な学習の充実

ア 「自分ごと」として社会的事象を捉えさせるための教材開発

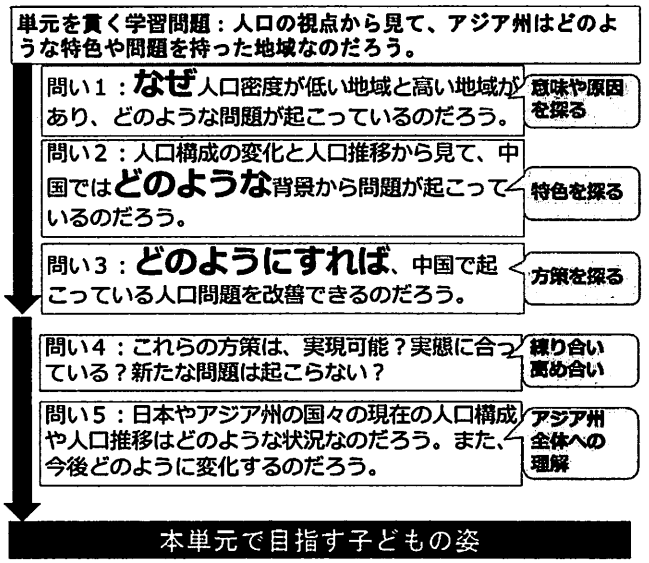
アジア州は，多くの古代文明が発達した地域であり，民族や文化，宗教も様々で，長い歴史の中で広範囲にわたり人々は交流してきた。現在の人口は，世界の約60％を占め，国別人口の上位10か国中に日本を含む6か国（国連2016年）が該当している。そこでは，多種多様な民族が生活しており，各国や地域によって見られる事象や問題も様々である。そのため，「人口」という視点から教材を開発し，単元を構成した。このことは，アジア州の地域的特色を理解させる上で有効であると考えた。また，複雑な地域だからこそ，六つの州の最後の学習に位置付け，それまでの五つの州で身に付けた知識や技能及び概念，見方・考え方を活用させた。

そして，「自分ごと」として社会的事象を捉えさせ，主体的に追究させるために，日本でも大きな社会問題となっている，少子高齢化が進行し，古くから関係の深い中国を追究の中心に据えた。中国は，世界最大の人口を抱え，発展途上国で多く見られる人口増加と先進国に多く見られる少子高齢化が同時進行する世界でも珍しい国である。その中国で見られる人口の多様な事象や問題を教材として取り上げ，方策を構想させることで，これまでやこれからの中国だけでなく，中国から大きな影響を受けている日本やアジア州全体を考えさせ，社会の一員としての自覚を高めさせることを目的とした。

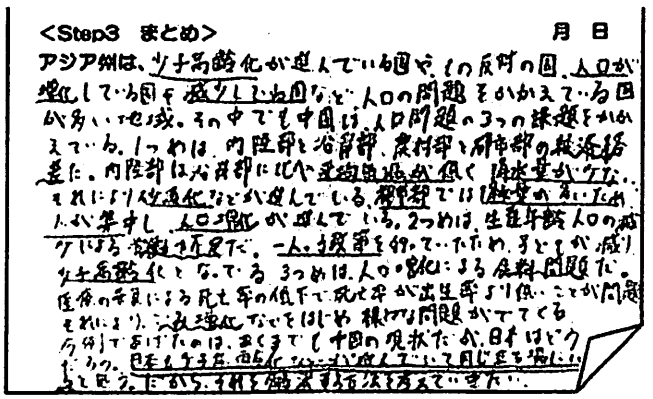
イ 持続可能な社会を支える資質・能力を育てる単元構想の工夫

アジア州の人口における社会的事象や人口問題の影響を多面的・多角的に考察し，よりよい社会を実現するための方策を「自分ごと」として追究させるため，まずは単元のねらいを明確に

した。そして，一つ一つの学習活動を有機的に結び付けるために，本単元を貫く学習問題「人口の視点から見て，アジア州はどのような特色や問題を持った地域なのだろう。」を設定し，その学習問題を解決するための小さな問いをつなぐことでねらいに迫らせた。その際，「なぜ（意味や原因を探る）」「どのような（特色を探る）」「どのようにすれば（方策を探る）」など，それぞれの学習段階に対応した問いを工夫し，生徒の思考の方向付けに努めた（**資料１**）。また，アジア州の地域的特色を理解させるために，「人口」を追究の軸とし，中国に関する人口の事象を中心に単元を構成した。そして，その事象をこれまで身に付けてきた見方・考え方を働かせながら，多様な自然的条件や社会的条件と関連付けて考察させたり，その事象の影響を追究させたりする活動を通して，論理的に思考し表現する力の育成を目指した。更に，既習の知識や概念，事象の背景や影響を根拠とさせ，よりよい社会のための方策を構想させることで，社会の一員としての自覚を養い，「持続可能な社会」を支える資質・能力の育成を図った。



資料１　単元のねらいに迫らせるための問いの工夫



資料２　論理的に思考し表現する力を発揮する生徒のワークシート

ウ　考　察

○７月に実施した学習アンケートを学習終了後に再度実施した結果，「持続可能な社会を築くために，社会の一員として自分も行動したいと思うか」という項目には，「行動したい」と回答した生徒が45％から55％に上昇したことから，本学習活動は一定の効果があったと考える。

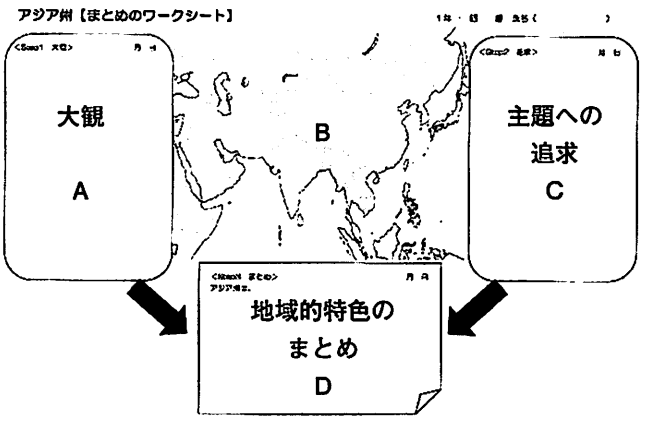
○生徒のワークシート（**資料２**）では，単元を貫く学習問題「人口の視点から見て，アジア州はどのような特色や問題を持った地域なのだろう。」に対して，人口構成や人口分布など複数の視点から事象を取り上げ，それらの事象と自然環境や産業といった背景，また，それらの事象が与える国内や世界への影響との関係性に気が付いていた。方策を考える際には，学習した事実を根拠として多面的・多角的に考察し提言しており，論理的に思考し表現する力を発揮する場面を見ることができた。それは，単元を貫く学習問題に迫るための小さな問いを有機的に結び付けたことや事象の背景や問題を追及させる学習活動を設定したことが効果的であったと考える。

○方策を構想する際，生徒のワークシートには，「日本も少子高齢化なので，今後中国と連携しながら対策を練ってほしい」や「中国の農村部と沿岸部の経済格差をなくすために，日本のふるさと納税の制度を取り入れたらよい」などの記述があることから，社会的事象を「自分ごと」として捉え，学習したことを単なる知識のみにとどめず，日本と関連付けてよりよい社会づくりという視点から考察していることが分かる。

(Ⅱ)「きょうどう」の精神を発揮する学び合いの充実

ア　深い学びを実現するための「見方・考え方」を働かせた追究方法の工夫

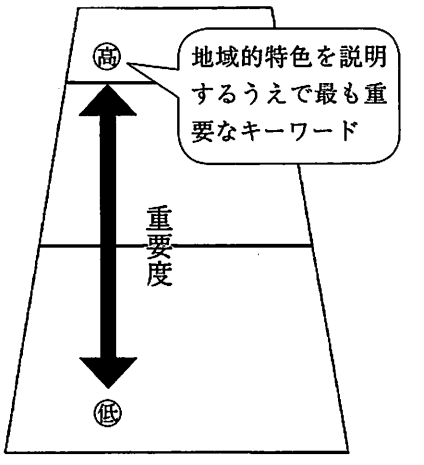
質の高い学び合いにするためには，まず個人の追究成果の質を上げる必要があり，その鍵となるのが「見方・考え方」である。そこで，中学１年生という発達段階を踏まえつつ，意図的に「見方・考え方」を働かせることができるような学習活動を取り入れた。大観の場面では，「自然環境」，「区分」，「経済」，「産業・結び付き」，「生活文化」，「歴史的背景」，「人口」の視点からアジア州を概観させ，多面的に追究させた（**資料３のA**）。そして，地理的な見方の基本である「どこに，どのようなものが，どのように広がっているのか」ということに注目させるため，追究成果を白地図にまとめさせた（**B**）。また，主題の追究の場面では，中国の人口について，「人口密度」，「人口構成」，「人口推移」の視点から社会的事象を追究させ，「相互関係」の視点から事象の背景と問題を『関連付け』て考察させた（**C**）。そして，日本，韓国，インドなどの人口構成と人口推移について追究させ，その結果を中国と『比較』させることで，一般的共通性と地域的特殊性に気付かせた。さらに，1950年から2050年（予測）の各国の人口構成と人口推移について取り上げ，「時間的な視点」から人口における事象を捉えさせた。単元のまとめの場面では，単元を通して身に付けた知識や概念を『統合』させ，「人口」の視点から見たアジア州の地域的特色について理解させた（**D**）。このように，さまざまな「視点」から事象を捉えさせ考察させることで深い学びの実現を目指した。



資料３　深い学びを実現するためのワークシート

イ　考えを広げ深める学習形態の工夫

小集団活動では，お互いが協働学習者であることを意識させ，主体的に自分の役割を果たさせるために，次のように学習形態を工夫し追究させた。まず，「協働」の学びの場として，「人口密度の高い地域」，「人口密度の低い地域」に小集団を分け，それぞれの事象の背景となる自然的条件や社会的条件とその事象が与える問題を『関連付け』て捉えさせた。次に，「人口構成」，「人口推移」の小集団に分け，上記と同じような学習活動を行った。そして，各自が担当した視点のエキスパートとして，異なる視点を担当した仲間と小集団をつくり，人口問題への方策を提言させた。そこでは，それぞれの視点から獲得した知識や概念を生かしながら自分の考えを述べさせたり，他者の意見を聞かせたりして，社会的事象を多面的・多角的に捉えさせるよう促した。また，「協同」の学びの場として，それぞれの方策について，「実現可能性」「実態に合致」「新たな問題の発生」という新たな視点から検証させ，練り合い高め合う活動を通して考えを「よりよい」公正な判断になるようにした。さらに，小集団で人口の視点から見た中国の地域的特色をまとめるために，まず既習の知識や概念を振り返り，人口についての特色と問題のキーワードをそれぞれ付箋に書き出させた。そして，それらのキーワードをランキングツール（**資料４**）を用いて『比較』や『関連付け』を促し，特に重要なキーワードを選出させ，「人口の視点から見て，中国は（　　）な国」という定型文の空欄にそれらのキーワードを使って地



資料４　ランキングツール

域的特色を説明させるように支援した。

ウ　考　察

○７月に実施した学習アンケートを学習終了後に再度実施した結果，「社会で起こっている問題や社会的事象について学習する時に，色々な立場や視点から捉えようとしているか」の項目では，「捉えている」と回答した生徒が43％から65％に上昇したことから，本活動が一定の成果があったと考える。

○アジア州の地域的特色をまとめたワークシートでは，自然環境や歴史的背景，産業などさまざまな視点から事象を捉え，人口について「場所」や「分布」に触れながら事象を複数の視点から追究し，それらの事象の背景や影響の関係性について記述していた。また，インドやアラブ首長国連邦などの他国を取り上げたり，「時間的な視点」から2050年の人口構成の推移に注目したりと，見方・考え方を働かせた深い学びに効果があったと考える。

○小集団活動では，「人口密度の高い地域」と「人口密度の低い地域」，「人口構成」と「人口推移」の小集団に分け，ジグソー学習の手法を用いて活動させることで，自分の役割を果たすために主体的に追究し，仲間と協働して解決させることに効果的であった。また，班員から出された方策を「持続可能性」「実態に合致」「新たな問題の発生」という視点から練り合い高め合わせた活動は，既習知識を結び付けたり再考したりする上で有効であったと考える。ただ，授業参観者からは中学１年生という発達段階を考えるとやや難しい活動という意見も出された。

○授業参観者からは，小集団活動で中国の特色をランキングツールを用いて追究させたことは，「思考の可視化」を図り，生徒は価値判断することを通して背景を熟考することになり，生徒の考えを広げ深めることに有効であったという意見があった。また，小集団の仲間とよりよい意見に決定することで「協同」の精神を育てることにもつながったと考える。

(Ⅲ)　資質・能力が育つ評価の工夫

ア　持続可能な社会を支えるために必要な資質・能力の育ちを見取るパフォーマンス課題の工夫

複雑で変化の激しい社会を生きていく生徒が，「よりよい社会」に参画する手掛かりを得られるように，今までの学びを活用することを求めるパフォーマンス課題を立てて評価した（**資料５・６**）。

〈パフォーマンス課題〉　あなたは，国連が主催する「子どもサミット」に参加するためにニューヨークに来ています。このサミットでは，世界中の各州から集まった子どもにより，毎年決められたテーマについてそれぞれの州で直面する問題が報告されています。今年のテーマは「人口問題」です。みなさんなら，アジア州代表としてどのような演説をしますか。学習したこと（事実）を根拠として問題を明らかにし，方策を交えたスピーチ原稿を考えなさい。

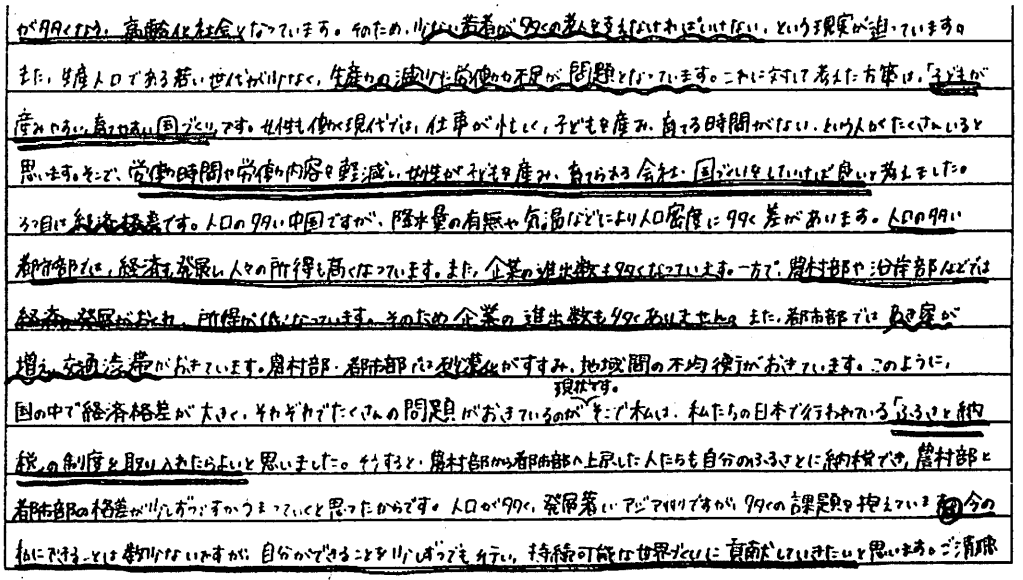
資料５　持続可能な社会を支えるために必要な資質・能力を育てるパフォーマンス課題

観点	評価Ａ	評価Ｂ
①	課題解決に向けての方策を提案し，さらに自分ごととして課題を捉え，関わりを持とうとしている。	○課題解決に向けての方策を提案している。 ○自分ごととして課題を捉え，関わりを持とうとしている。
②	学習した事実を根拠として問題を示し，その問題の方策を多面的に捉えたスピーチ原稿になっている。	○学習した事実を根拠として問題を示し，その問題の方策を考えたスピーチ原稿になっている。

資料６　パフォーマンス課題におけるルーブリックによる評価

イ　考　察

「自分ごと」として社会的事象を捉える姿とは，単に意欲的に追究する姿ではなく，社会の現状に対する課題や解決の方向性について考え判断し表現したり，持続可能な社会の形成に主体的に参画したりしようとする姿である。


が9%くらい。高齢化社会となっています。そのため，少ない若者が多くの老人を支えなければいけない，という現実が迫っています。
また，生産人口である若い世代が少なく，生産力の減りに労働力の不足が問題となっています。これに対して考えた方策は，「子どもが
産みやすい，育てやすい国づくり」です。女性も働く現代では，仕事が忙しく，子どもを産み，育てる時間がない，という人がたくさんいると
思います。そこで，労働時間や労働内容を軽減し，女性が子どもを産み，育てられる会社・国づくりをしていけば良いと考えました。
2つ目に経済格差です。人口の9%い中国ですが，降水量の有無や気温などにより人口密度に9%く差があります。人口の9%い
都市部では，経済も発展し，人々の所得も高くなっています。また，企業の進出数も9%くなっています。一方で，農村部や沿岸部などでは
経済の発展がおくれ，所得が低くなっています。そのため企業の進出数も9%くありません。また，都市部では自動車が
増え，交通渋滞がおきています。農村部・都市部の二極化がすすみ，地域間の不均衡がおきています。このように，
国の中で経済格差が大きく，それぞれでたくさんの問題がおきているのが現状です。そこで私は，私たちの日本で行われている「ふるさと納
税」の制度を取り入れたらよいと思いました。そうすると，農村部から都市部へ上京した人たちも自分のふるさとに納税でき，農村部と
都市部の格差が小しずつすかうまっていくと思ったからです。人口が9%く，発展途上アジアの小りですが，9%の課題を抱えている私の今の
私にできることは多少ないかすが，自分ができることを小しずつでも行い，持続可能な世界づくりに貢献していきたいと思います。ご清聴

資料７　パフォーマンス課題に対する生徒のワークシート

資料５の課題を実施した中で，生徒は見方・考え方を働かせながら単元を通して身に付けた知識や概念を統合し，社会の課題を「自分ごと」として捉え，社会の一員として持続可能な社会の形成に参画しようとする姿が見られた（**資料７**）。生徒は，アジアの人口問題を～～～～のように示した。そして，それぞれの問題について＿＿＿のように方策を提案している。

さらに，◎＿＿＿のように課題解決に向けて関わろうとする気持ちを表した。このように，課題に対して実態を考慮した上で，多面的・多角的に考察し提案している点や日本で実施されているふるさと納税の制度を方策として提案している点などから中国の人口問題という課題を「自分ごと」として捉え，社会の一員として関わろうとしていることを見取った。

４　成果と課題（○成果，●課題）

○　成果

アジア州の地域的特色を「人口」という視点から，単元を貫く学習問題を意識させながら追究させたことで，生徒は見方・考え方を働かせながら知識や概念を習得し，それらを活用して特色を理解できた。人口問題の方策を提案する活動を通して，持続可能な社会に必要な資質・能力を育てることができた。アジア州を六つの州の最後の学習に位置付けたことで，生徒の発言やワークシートへの記述の中に，他の州で身に付けた資質・能力を活用する場面を見ることができた。これらのことは，多種多様なアジア州を深く理解するのに効果的であったと考える。さらに，課題追究の過程で，我が国の人口問題との共通点や相違点に気付かせ考察をさせたことで，「自分ごと」としての意識を高められた。

●　課題

生徒が提案した人口問題への方策の中には，実態に合っていないものや実現が難しいものも含まれており，その際に教師が新たな問いを示し，生徒に考える場面を設けることが必要であった。また，パフォーマンス課題に対する生徒の記述の内容から，基礎的な知識や技術及び概念，社会参画する態度を身に付けさせることが必要であることを痛感した。

研究（その２）

社会の形成者の一人として未来を構想する社会科学習の展開

ー地理的分野　日本の諸地域「中国・四国地方」の実践よりー

（実践者）西田　剛志

１　研究テーマ設定の理由

今日の社会情勢の中にあっては，生徒たちにしっかりと社会や世界に向き合い，関わり合い，現在と未来に向けて，自らの人生を切り拓いていくことが求められている。そこで広い視野に立ち，グローバル化する国際社会の中での立ち位置を自覚させ，社会や世界の中で自ら問いを立て，多様な人々と「きょうどう」しながら問題解決をさせたいと考えた。また，持続可能な社会の形成の観点からの考察を通して，社会的事象を身近に感じさせ，様々な問題の解決に向けて主体的に取り組ませたいと考えた。これらの活動を通して，「持続可能な社会」の形成者の一人として社会に参画し「よりよい社会をつくる」「よりよい社会に生きる」に向けて歩み続けるために必要な資質・能力を育成したいと考え，本研究テーマを設定した。

２　研究の内容及び方法

次の三つの「研究の内容及び方法」により，１年次より継続して研究を推進している。

(Ⅰ) **問題解決的な学習の充実**
　生徒に社会や世界の中での立ち位置を自覚させ，社会的事象に主体的に向き合わせるために，資料の提示や問い，学習展開，ワークシートの工夫をする。

(Ⅱ) **「きょうどう」の精神を発揮する学び合いの充実**
　広い視野から社会的事象を捉え，互いの社会的な見方や考え方を広げ深めさせるために，また，生徒の自尊感情を醸成させるために，生徒どうしの学びが生かされ合う学び合いの場を設ける。

(Ⅲ) **資質・能力が育つ評価の工夫**
　生徒の学びを「よりよい社会をつくる」「よりよい社会に生きる」よう構想し続ける「実践力」につなげるために，パフォーマンス課題を適切に設け，生徒自身に思考力，判断力，表現力等の成長や変容を実感させる。

３　研究の実際

(1) **単元名**　　日本の諸地域「中国・四国地方」（全８時間）

(2) **「逆向きテンプレート」による単元計画**

第１段階：求められている結果

【研究テーマを踏まえた単元目標】：
○中国・四国地方の地域的特色を，交通や通信を中核として，都市の形成や人口の減少，産業の発達や衰退，生活の変化と関連付けて多面的・多角的に考察し，理解することができる。
○人口減少社会において，中国・四国地方に住む私たちは，社会の形成者の一人としてよりよい社会をつくるためにどうすれば良いのかを，地域の持続可能な社会づくりの観点から考察し，その解決に向けた構想を適切に表現することができる。

【本質的な問い】
人口減少社会において，私たちは，持続可能なよりよい社会をつくるためにどうすれば良いのだろう。

【永続的な理解】
人々の営みは，自然環境のみならず，他の地域との結び付きや様々な事象との関わり合いの上に成立している。そして人々は，地域が発展したり衰退したりする中で，努力と工夫をしながら生きている。急激な少子高齢化が進み，人口が減少する今，私たちは，地域の姿を的確に捉え，持続可能なよりよい社会をつくるために地域の未来を思い描き，他地域の人々の営みにならい，その効果を見いだし，適切に生かしていくなど，社会の形成者の一人として主体的に参画すると良い。

【生徒は次のことができるようになる】
○中国・四国地方の地理的事象には，多面性があることに気付くことができる。
○中国・四国地方の地理的事象を白地図などに整理し，空間的に認識することができる。
○中国・四国地方の抱える課題を，現在や将来など，時間的な視点から背景を探ったり，その解決策を考察したりすることができる。

【単元目標に必要な「論理的に思考し表現する力」】
日本の諸地域の事象や抱える課題について，その背景を多面的・多角的に，また，空間的・時間的な視野を持って考察し，根拠を明確にして表現する。

第2段階：評価のための証拠

【パフォーマンス課題】
あなたは中国・四国地方の調査の結果，交通網や通信網の整備により，産業や人口や都市・村落が発展したり衰退したりしたことを知りました。人口減少社会の今，私たちが住む地域を，持続可能なよりよい社会にするために，どうすればよいのか，Ｂ５判１枚のレポートにまとめなさい。

【パフォーマンス課題における評価規準】
○中国・四国地方の学習で身に付けた知識を生かし，具体的な課題を示したり根拠となる十分な資料を作成したりしている。
○課題解決のための自分の意見を述べている。

【他の根拠】（評価方法等）
○個人で設定した追究課題の状況
○話合いや追究状況の観察
○振り返りのワークシートの記述

第3段階：学習計画（全８時間）

1	中国･四国地方の自然環境と生活の変化	中国・四国地方の人々の生活や産業が，本州四国連絡橋やインターネットなど，交通網や通信網の整備により，大きく変化したことに気付く。	１時間
2	中国･四国地方の産業や都市の変容	中国・四国地方の産業や人口や都市・村落が，成立したり変容したりした背景を，海上交通や陸上交通の整備，高度経済成長と関連付けながら追究する。	１時間
3 4	中国･四国地方の交通･通信と産業の変化とその課題	中国・四国地方の農業・漁業が，全国展開するようになった背景を，交通網や通信網の整備と関連付けながら追究する。 交通網や通信網の整備が生んだ，中国・四国地方への効果と課題について追究する。	２時間
5 6	愛媛県今治市での取組とその効果	愛媛県今治市での取組を事例として，人口減少に対してどのような効果があるか検証し，「持続可能なよりよい社会をつくる」ために必要なことを追究する。	２時間
7 8	パフォーマンス課題	私たちが住む地域を，持続可能なよりよい社会にするために，追究成果を生かしながら情報交換して学習を深め，パフォーマンス課題に取り組み，学習を振り返る。	２時間

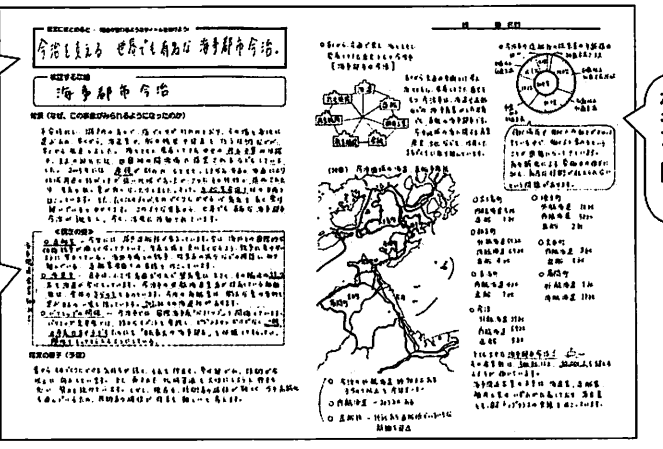
(3) 指導の実際

(I) 問題解決的な学習の充実

生徒たちに中国・四国地方における社会的事象に主体的に向き合わせ，その問題やその背景を「熟考」させるために，地域教材を用いるなどの教材開発をして課題意識を持たせたり，問題解決的な学習の追究過程で小集団で役割分担して社会的事象や問題の背景を多面的・多角的に捉えさせるよう単元を構成したりした。また，現在の社会の「持続可能性」や「実現可能性」，将来の様子などの観点から考察させるようワークシート（**資料１**）やパフォーマンス課題（**資料２**）の工夫をすることにより，空間的・時間的な視野を持って追究させるようにした。

自分の考えを要約して説明させるために，調査結果から見いだした特色のある事象をもとに，簡潔にタイトルとしてまとめさせる。

因果関係を明確にして思考を整理し，多面的・多角的に，また，時間的な視野を持って社会的事象を捉えさせるために，「現在の姿」→「背景（なぜ，この事象がみられるようになったのか）」→「将来の様子（予想）」の項目を立てる。



根拠となる資料を，グラフや主題図にまとめさせる。

資料１　生徒の思考を整理して表現させるワークシート

(II) 「きょうどう」の精神を発揮する学び合いの充実

「自分の意見や考え」を持たせるために，お互いが「きょうどう」する学習者であることを前提にして，小集団内で役割分担を明確にしたり，お互いの学びが生かされ合う姿の「可視化」をしたりした。その際，調査結果を持ち寄らせ，比較や関連付けをさせたり，自分の考えを根拠と

ともに説明させたりしながら，対話や議論を通じて多様な考えを理解したり自分の考えを広げたりできるような場を設定した。以下に指導計画第７時の指導（７／８時間）での展開を示す。

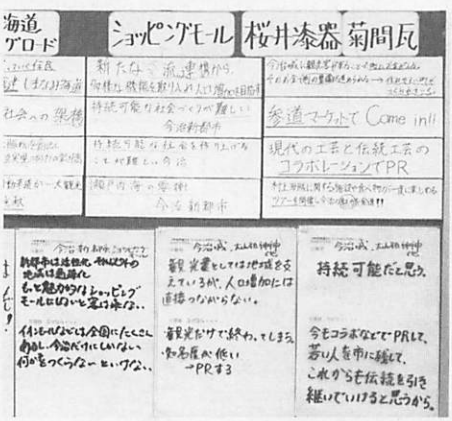
(ア) 主　題　　持続可能な中国・四国地方の在り方を考えよう

(イ) ねらい

○今治市での取組とその効果について様々な資料を用いて多面的・多角的に考察し，中国・四国地方の地域的特色を理解する。

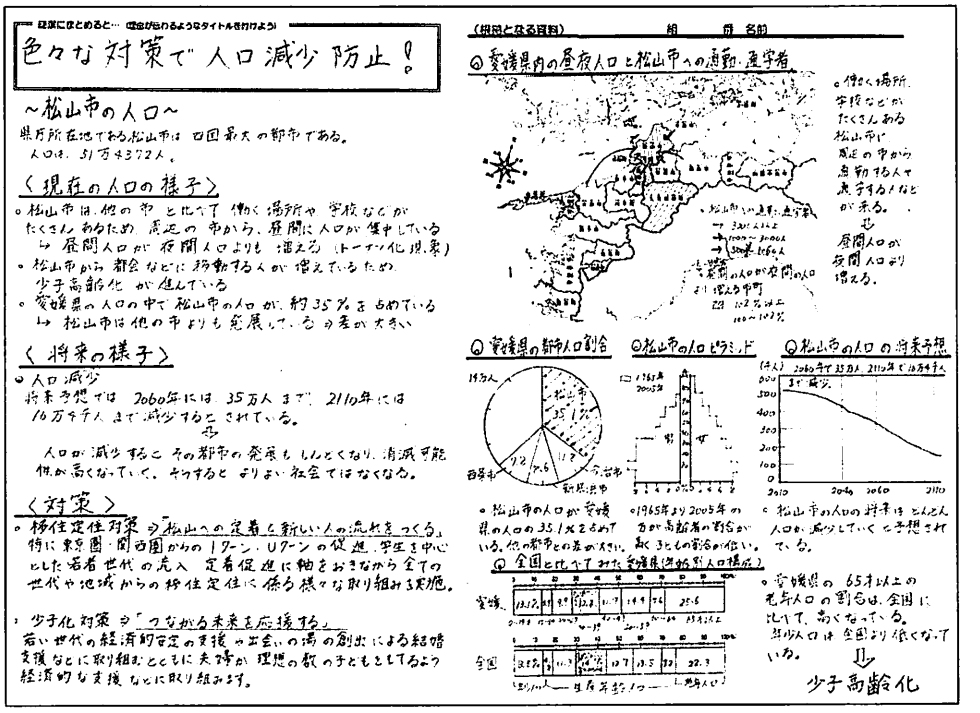
○社会の形成者の一人として，地域の実情に合った持続可能な社会をつくるという観点から中国・四国地方の在り方について考察し，表現する。

(ウ) 展　開

学習活動（形態）	○教師の働きかけ　•生徒の反応	○指導の工夫　◇評価（方法）
1　中国・四国地方の交通や通信の整備と今治市の状況を確認する。 （一斉）	○中国・四国地方における今治市の産業や都市・村落の成り立ちと現状を，位置や交通の面から確認しよう。 • 海運業と関連して造船業が盛んになった。 • しまなみ海道が開通して生活が変化した。 • 消滅可能性都市とされている。	○社会的事象を多面的・多角的に捉えさせるために，産業や都市・村落の成り立ちと交通の整備など，様々な事象を関連付けて確認させた。
学習問題①	県内第１位の工業製品出荷額，第２位の人口を持つ今治市が，消滅可能性都市である。今治市での取組は，人口減少に対してどのような効果があるのか検証しよう。	
2　今治市での取組の効果について調査結果を検証し，共有する。 （小集団） ↓ （全体）	○取組の背景とその効果を発表しよう。 海事都市今治，海運業，造船業，はーばりー今治タオル，伯方の塩 バリィさん，ＦＣ今治 今治焼豚玉子飯・焼き鳥・せんざんき 岡山理科大学獣医学部 しまなみ海道とサイクリングロード 今治城，村上海賊，大山祇神社，桜井漆器，菊間瓦 今治新都市，ショッピングモール	○論理的に思考し表現させるために，事象の背景を空間軸，時間軸にも着目したワークシートにまとめさせたり，協働学習者として分担して調査した結果を持ち寄らせ，自分の考えを根拠を明確にして説明させたりした。 ◇担当した事象について多面的・多角的に考察し，課題に対して根拠を明確にして説明している。 （ワークシート）
学習問題②	今治市での取組の効果について再検証しよう。	
3　今治市での取組の効果について再検証する。 （小集団） ↓ （全体） 《再検証の観点》 ○何か別の問題は起こらないのか ○その地域の実情に合っているのか ○持続可能なのか ○今治市のどこの地域に効果があるのか ○どこの地域でも効果があるのか	○他の班の調査結果を再検証しよう。  他の班の調査結果に対する検証（一部） ○私たちが住む松山では，どのような取組が効果があるのだろう。	○社会の形成者の一人としての自覚のもと，将来に向けて実現可能性を踏まえた構想をさせるために，「どこ」に対する取組であるのか，地域を明らかにして検証させた。  追究成果を根拠に他の班の追究成果を検証する学び合いの姿 ○実感を持って将来の構想をさせるために，身近な地域の事例をあげさせた。
学習問題③	人口減少社会において，私たちは，地域を持続可能なよりよい社会にするために，どうしたらよいのだろう。	
4　本時の学びを振り返る。　（個人） ↓ （全体）	• 地域の姿をしっかりと捉え，地域の未来を思い描き，他地域の人々の営みにならい，その地域にあった取組を生かしていくなど，自分の事として社会に参画すると良い。	◇地域を適切に捉え，将来に向けた構想について自分の考えを述べている。　（ワークシート・観察）

(Ⅲ) 資質・能力が育つ評価の工夫

前述(Ⅰ)・(Ⅱ)における中国・四国地方の問題やその背景に対する追究成果を生かし，社会の形成者の一人として持続可能な「よりよい社会をつくる」「よりよい社会に生きる」ということを志向し，地域の未来を構想する場としてパフォーマンス課題「私たちが住む地域を，持続可能なよりよい社会にするためには，どのようにすればよいのだろう？」に取り組ませた（**資料２・３**）。なお，本実践は当初の指導計画を変更し，第８時を次単元「身近な地域の調査」（全３時間）として行った。



資料２　パフォーマンス課題での思考と表現の実際

評価する観点　①関心・意欲・態度　②思考・判断・表現　③資料活用

評価　A	評価　B	評価　C
①（②具体的な課題を示し ③十分な根拠となる資料を作成して示し， ②課題解決のための自分の意見を述べている。）	具体的な課題を示し，資料を作成して示し，課題解決のための自分の意見を述べている。	具体的な課題が見いだせないまま，自分の意見を述べている。
47人	31人	0人

資料３　パフォーマンス課題のルーブリックによる評価（第２学年78人対象）

４　成果と課題（○は成果，●は課題）

○追究過程やパフォーマンス課題のワークシートへの記述から，ほとんどの生徒が社会的事象の問題や背景などを時間的な視野を持って因果関係を明確にして整理することができるようになったことが分かった。また，地図やグラフを適切に用い，これらを根拠として説明することができるようになった。タイトルを付けさせる活動は，自分の意見を整理し，他者へ簡潔に伝える力を養い，論理的に思考し表現する力の育成につながったと考えられる。

○他者の追究成果を再検証するアクティブ・ラーニングにより，他者の追究成果を参考にしたり，自分の追究成果を生かしたりしながら，より深い学びになっていた。また，「持続可能性」や将来の様子について考察させたことで，公民的分野へのステップアップにつながる学びになったと言える。

●持続可能な「よりよい社会をつくる」「よりよい社会に生きる」という抽象的な言葉を使い問いを立てた時には，ややもするとそれまでの社会科での学びと乖離する発言や表現が見られた。あくまでも社会科の各分野，地理的分野ならば広い視野に立ち，地域に関わる諸事象や特色を理解するためには，地理的な「見方・考え方」で多面的・多角的に考察したり，地理的な課題の解決に向けて公正に判断したりする力が必要である。その意味で社会的な「見方・考え方」が自在に使えるように継続した学習指導が必要である。

参考文献

西岡加奈恵（2008）「『逆向き設計』で確かな学力を保障する」明治図書
澤井陽介・加藤寿朗（2017）「『見方・考え方』社会科編」東洋館出版

研究（その３）

現在・未来のよりよい姿を構想する歴史学習の創造

ー歴史的分野　「日本列島における国家形成」の実践よりー

（実践者）宮本　真人

１　研究テーマ設定の理由

歴史的分野の学習は基本的に「過去」のできごとを扱うものである。したがって「現在」と「将来」の二つの視点を軸にして論じられる「持続可能な社会」の形成に資するためには，「過去の事実の分析や解釈を通して，現代社会の特色や自分の立ち位置を認識し，それを踏まえて未来社会を予見し構想できる力」が育つ学習が大切だと考える。このためには，授業において，歴史的事象やそこで見られる課題について，よりよい社会の実現を視野に熟考しながら主体的に追究できることが必要である。また，その過程においては，論理的に考え表現し合う生徒同士の対話的な学びを通してこそ，多面的・多角的に捉えさせることができ，それが「よりよさ」を志向することにつながると考える。教科領域研究テーマに資するためには，このような授業を積み重ねることが必要であると考え，本研究テーマを設定した。

２　研究の内容及び方法

(Ⅰ)　問題解決的な学習の充実

○知識を持続可能な社会の形成に資するものに成長させる「問い」の工夫

(Ⅱ)　「きょうどう」の精神を発揮する学び合いの充実

○他者からの学びを促進する言語技術教育の手法やＩＣＴ機器の効果的な活用

(Ⅲ)　資質・能力が育つ評価の工夫

○よりよい社会や自分を志向することにつながるパフォーマンス課題の設定

３　研究の実際

(1)　**単元名**　　古代までの日本（イ）「日本列島における国家形成」（全６時間）

(2)　**「逆向きテンプレート」による単元計画**

第１段階：求められている結果

【本単元における目標】

○農耕の広まりや生産技術の発展，東アジアとの交流と政治や文化の変化などに着目して，縄文時代から古墳時代までの我が国における社会の変化を多面的・多角的に捉えることができる。

○国家形成過程における日本列島に住む人々の生活や社会の変化から得た理解を根拠に，「よりよい社会の創造のために，どのようなことが必要とされるのか」について，多面的・多角的に考察し表現することができる。

【本質的な問い】

日本列島において，どのように国家が形成されていったのだろう。また，この時代は，現代日本人の生活とどのようにつながっているのだろう。

【永続的な理解】

日本の豊かな自然環境の中における生活が，農耕の広まりとともに変化していき，６世紀ごろまでの日本において，特に東アジアの文明の影響を受けながら国家が形成されていった。この時期の自然崇拝や農耕儀礼などに基づく信仰や大陸から移住してきた人々が社会に果たした役割は，現代社会にもつながっている。

【生徒は次のことができるようになる】

○当時の人々の信仰やものの見方，大陸から移住してきた人々の我が国の社会や文化に果たした役割に気付くことができる。

○農耕の広まりが生活や社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し，表現することができる。

○日本列島における農耕の広まりと生活の変化や信仰，朝廷による統一と東アジアとの関わりに関する資料を収集し，有益な情報を適切に選択して，読み取ることができる。

○我が国における国家形成のあらましを，東アジアとの関わり，古墳の広まり，大和政権による統一などの事象をもとに説明することができる。

【単元目標に必要な「論理的に思考し表現する力」】
我が国の国家形成に関わる事象の意味や意義，生活や文化の特色を，時期や年代，推移，比較，相互の関連や現在とのつながりに着目して多面的・多角的に考察し，その過程や結果を分かりやすく説明する。

第２段階：評価のための証拠

【パフォーマンス課題】
「古代から，これからのよりよい社会を考える」をテーマに，全国中学生スピーチコンテストが開催されます。スピーチは「人々が農耕・牧畜を始めたということは，【　　】を手に入れたということである。これから私たちの社会が，よりよい道を歩むためには，改めて，この【　　】に目を向ける必要がある。」と要約されるものです。【　　】に適当な言葉を当てはめ，パラグラフの形式に沿ってスピーチを完成させましょう。

【パフォーマンス課題における評価規準】	【他の根拠】（評価方法等）
○学習の成果を活かして，「よりよい社会の姿」を自分なりに解釈している。 ○課題について，日本列島における農耕の広がりによる社会の変化を基に考察し，具体的な事例を挙げてスピーチを構成している。	○個人で設定した課題の状況 ○課題追究状況の観察 ○ワークシートの記述 ○「学習のまとめ」の記述

第３段階：学習計画（全６時間）

1	日本の旧石器時代	日本列島における新石器時代の人々の生活の特色をまとめ説明する。	１時間
2	縄文時代の人々の暮らし	旧石器時代から新石器時代にかけて，人々の暮らしの推移を捉え，縄文時代の人々の暮らしについてまとめ表現する。	１時間
3	縄文から弥生への転換	農耕の広がりとともに人々の生活が変化したことを捉え，縄文時代と弥生時代との違いについて説明する。	１時間
4	ムラからクニへ ～古代国家の成立～	大和朝廷による統一の様子を古墳の分布や鉄剣等の資料を通して捉え，国家が次第に形成されていったことを理解する。	１時間
5	さかんになる朝鮮半島との交流	大和朝廷と東アジアとの関わりについて追究して，理解するとともに，古墳文化の特色を表現する。	１時間
6	パフォーマンス課題	パフォーマンス課題について，日本列島における農耕の広がりによる社会の変化を基に，現代とのつながりに着目して考察し，具体的な根拠を挙げてスピーチを構成する。	１時間

(3) 指導の実際

(I) 問題解決的な学習の充実（問いの工夫）

○ 知識を持続可能な社会の形成に資するものに成長させる「問い」の工夫

本単元では，単元を貫く学習問題を，「日本列島において，どのように国家が形成されていったのか」と設定した。これを捉えさせていくためには，旧石器から古墳までの各時代の転換の様子を，生徒が納得・理解して自らの言葉で説明できるようにならなければならない。そこで，毎時の学習で深い学びを実現できるよう，各時代の人々の様子や社会状況を捉える「追究課題」，その追究で得た知識の定着を図る「理解確認課題」，習得した知識を活用して思考･判断する「理解深化課題」の三つの「問い」を柱に授業を構成することを基本とした。また，問いの追究・表現を通して，生徒が古代と現代とのつながりを考察しやすくなり，持続可能な社会に参画する手がかりを得ることにつながるよう留意した。例えば，以下の通りである。

追究課題	旧石器時代から新石器時代へと，人々の暮らしはどのように「推移」したのだろう。―縄文時代において，老人やけが人は集落の邪魔者であったか―
理解確認課題	縄文時代の人々は，どのような生活をしていたと言えるのだろう。
理解深化課題	一万年以上も長く「安定」が続く縄文時代，この時代から，今を生きる私たちは何を学ぶことができるのだろう。

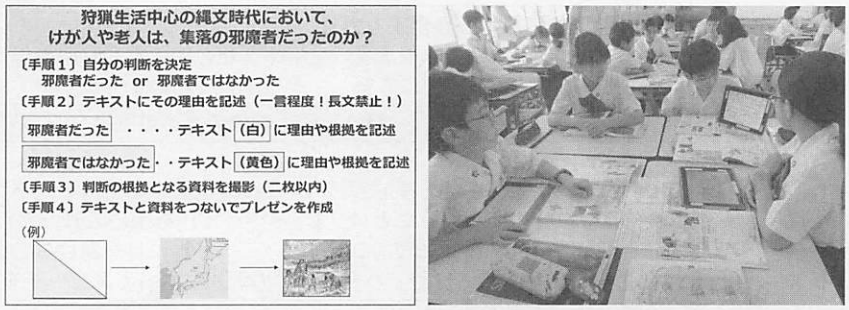
主題名「縄文時代の人々の暮らし」（本実践２時間目）での問いの構成

(II) 「きょうどう」の精神を発揮する学び合いの充実

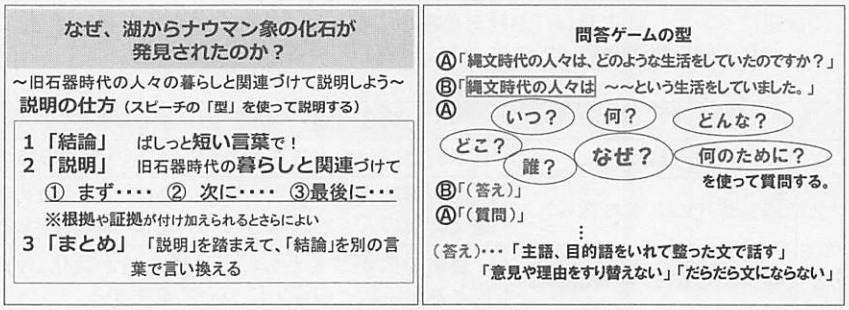
○ 他者からの学びを促進する言語技術教育の手法やＩＣＴ機器の効果的な活用

「追究課題」の解決に当たっては，個人で追究したことを基に，お互いに納得するまで話し合わせる中で，当時の社会状況についての見方･考え方がより社会的に育つことを意図して「協同」の学びを構成した。ここで言う「協同」の学びとは，他者と協力して自分も相手も納得できる「よ

りよい」解や解釈を導き出す過程における学びを指す。ここでの個人や小集団での追究の過程や成果は，自他の異同を明確にしながら共有し合えたり，各自が判断した根拠を理解し合えたりできることが大切である。そのため，言語技術教育の時間に習得したスピーチの型を活用しながら意見交換をさせたり，タブレットＰＣを活用して，適宜小集団や全体にプレゼンテーションさせたりした（資料１）。



資料１　プレゼンテーションの作成手順と小集団での発表の様子



資料２　スピーチや問答ゲームの型を活用した表現活動

また，理解確認課題においては，生徒全員が同様の理解にたどり着くように意図した「共同」の学びを構成した。そのため，スピーチや問答ゲームの型（資料２）を活用してペアや小集団で表現し合わせ，各自の考察結果の共有と理解の定着を図った。

(Ⅲ)　資質・能力が育つ評価の工夫

○　よりよい社会や自分を志向することにつながるパフォーマンス課題の設定

本実践のパフォーマンス課題におけるルーブリックと成果例は，次の通りである。

評価	A	B
関心意欲態度	現代社会の姿を例にしながら，持続可能な社会づくりに向けた自分の考えを具体的に主張している。	学習の成果を活かして，よりよい社会の姿を自分なりに解釈している。
人数	49名	15名
思考判断表現	課題について，日本列島における農耕の広がりによる社会の変化を基に，現代とのつながりに着目して考察し，具体的な資料を活用して，説得力のあるスピーチを構成している。	課題について，日本列島における農耕の広がりによる社会の変化を基に考察し，具体的な事例を挙げてスピーチを構成している。
人数	34名	30名

資料３　ルーブリックによる実際の評価（全64名）

結論

人々が農耕・牧畜をはじめたということは，【　】を手に入れたと言うことことになります。これから私たちの社会がよりよい道を歩むためには，改めて【　】に目を向ける必要があるのではないでしょうか。

【　】に当てはまる言葉…【　協力・思いやる力　】

理由・根拠

私がこう考える理由は，三つあります。

一つ目は，社会が長く続くためにはこの力が絶対に必要だからです。この時代は，集落を持続させるために，生産するのにも，食料を食べることなどにも将来に向かった協力や思いやりが不可欠でした。二つ目は，この力を発揮することで物事がよりよく進むからです。この時代に，農耕や牧畜をよりよく行うためには，集落全体でいろいろな人が協力することが必要でした。三つ目は，これらの力を発揮することでより大きな成果を上げることができるからです。弥生時代のあと，古墳などの巨大な遺跡を作り上げていきます。そこでは様々な人が思いを共有しながら，協力しあっていました。

私は，古代に手に入れたこのような力を，今こそ発揮すべきだと思います。毎日，争いのニュースが絶えません。地球上の全員が，思いやり協力していけば，争いはなくなっていくと思います。また，環境問題も，古代にはあった動物・自然などへの思いやりが足りなくなってきているから起こっているのだと思います。未来に向け，暗いニュースが多い今，古代に手に入れた力を私たちが発揮することで，よりよい道がひらけると思います。

資料４　生徒Ａのスピーチ原稿

本パフォーマンス課題の設定においては，生徒の確かな社会認識が育つとともに，それに基づき，これからの「よりよい社会や自分」を志向することにつながるよう留意した。それとともに，「よいよい社会や自分の姿を思い描く力」（社会科研究テーマ）及び「事象や問題の背景を熟考し，自分の意見や考えを持ち表現する力」（社会科で設定した論理的に思考し

表現する力）の伸長が図られるよう，当時の状況を示した想像図や現代の社会状況を示した資料，言語技術教育の成果等を活用させながら，表現活動の充実を図った。

4　成果と課題（○成果，●課題）

授業参観者や研究パートナーの愛媛大学教員からの助言等を基に，本実践の成果と課題を，次のように考察した。

○多様な解釈ができる問いの組立てにより，歴史的事象を題材に自由な雰囲気で話合いができる風土が醸成されていた。また，互いの意見の異同を踏まえながら「よりよい」解を求めようとする姿勢が随所に見られた。

○「よりよい」解を求める授業の積み重ねは「歴史は自ら考えながら学ぶ」「歴史の時間は過去を映し鏡に未来を考える時間」といった学びのイメージを確立することにつながる。

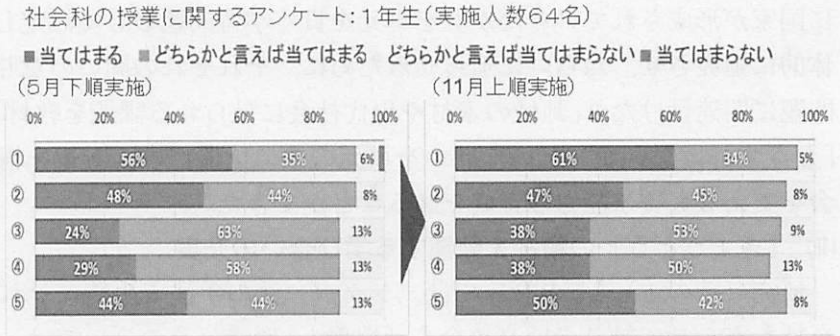
●一方で，本実践の問いの構成はすべて答えのない（はっきりしない）ものである。しっかりとした歴史認識を育むという観点に立てば再考の余地がある。

●対話を充実させるためには，「歴史的な見方・考え方」を働かせて思考・表現できるような質の高い質問をし合うことが大切である。その質問力を育む指導と評価の工夫を日々の授業の中で積み重ねていかなければならない。

●持続可能性を念頭に置いたとき，古代であれば「環境」や「食料」といった観点からの教材開発や問いの工夫は必要である。「持続可能な社会を支える資質・能力」を育成する上では，教材開発等において，ＳＤＧｓの17の目標を視野に入れることも考えられる。

●ＩＣＴの活用について，深い学びの妨げにならないよう，発達段階も踏まえながら，効率的で効果的な活用方法についてさらに検討していく必要がある。

資料５は，生徒アンケートの一部である。今年次研究においては，研究主題の具現化に向け，③と⑤の２項目を重点に実践を積み重ねた。これらについて，３月末までに「当てはまる」と回答する生徒を，項目③を40%，項目⑤を60%にすることを数値目標とした。



①社会科で学習したことは，将来社会に出たときに役に立つと思う。
②社会科の授業では，目的に応じて資料を読み，自分の考えを表現している。
③社会科で表現するときは，うまく伝わるように話の組み立てを工夫している。
④社会科で自分の考えを表現するとき，理由や根拠が伝わるように気を付けている。
⑤社会科で学んだことを活かして，現代や将来のよりよい社会を考えようとしている。

資料５　社会科アンケート　５月と11月の実施状況

11月までの推移を見ると，本校の研究主題の達成に向け，良好な推移を読み取ることができる。上記の成果と課題を踏まえ，設定した目標が達成できるよう，授業改善に努めたい。

参考文献

西田正規（2007）「人類史のなかの定住革命」講談社学術文庫
市川伸一（2012）「教えて考えさせる授業 中学校」図書文化
西岡加名恵（2016）「教科と総合学習のカリキュラム設計」図書文化
澤井陽介・加藤寿朗（2017）「『見方・考え方』社会編」東洋館出版
小林達夫（2018）「縄文文化が日本人の未来を拓く」徳間書店

第３章　おわりに

社会科では，持続可能な社会を支える資質・能力を「よりよい自分や社会の姿を思い描く力」と捉え，その育成に向けて研究を行ってきた。そして，いかに論理的な思考力・表現力を発揮させるかを基本にしながら，３年間を通して，問題解決的な学習の充実，「きょうどう」の精神を発揮する学び合いの充実，資質・能力が育つ評価の工夫の３点を柱として，学習の充実を図ってきた。その結果，生徒が事象や問題の背景を空間的な視点や時間軸の視点などから追究したり，６Ｗ１Ｈを意識しながら筋道を立てて表現したりすることができるようになった。また，問いや教材の工夫により，多様な解釈を基に「よりよい解」を追究しようとしたり，学習した過去の事実の分析や解釈，社会的事象の与える様々な影響を生かしながら現代社会や未来社会を捉えようとしたりするなど，持続可能な社会を担う一員として必要な態度を育てることができた。一方で，それぞれの分野で求められる見方・考え方を働かせて思考・判断できるような，より質の高い問いを作る力を育むための指導やパフォーマンス課題において見取りたい資質・能力を表出させるための課題設定や評価におけるルーブリックの在り方に課題が残った。これらの質を上げるために今後も研究を続けたい。さらに，持続可能な社会という視点から，2015年に国連サミットで採択された持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）の17の目標を視野に入れた教材開発も積極的に進めたいと考えている。

(Ⅰ)　問題解決的な学習の充実

研究（その１）では，「人口の視点から見て，アジア州はどのような特色や問題を持った地域なのだろう」，研究（その２）では，「人口減少社会において，私たちは，持続可能なよりよい社会をつくるめにどうすればよいのだろう」，研究（その３）では，「日本列島において，どのように国家が形成されていったか」を単元を貫く学習問題として設定した。それらについて生徒に主体的に追究させ，ねらいに迫らせるために，それぞれの問いの意味を明確にして単元を貫く学習問題に関連付けたり，地域の素材や現代社会に見られる課題を教材として開発したりした。また，「どうすればよいか」という問いを単元の中に位置付け，方策を構想させることで持続可能な社会を支える資質・能力の育成を図ることができた。

(Ⅱ)　「きょうどう」の精神を発揮する学び合いの充実

研究（その１）（その２）では，ジグソー法の手法で生徒にそれぞれの役割を与えて追究成果を持ち寄らせて練り合い高め合う「協働」，研究（その３）では，同じ結論に至るように話し合う「共同」と他者と協力してよりよい解や解釈を導き出す「協同」の学びを構成した。そして，学び合いの充実のために，全校体制で取り組んでいる言語技術教育で習得しているスピーチの型を活用したり，思考ツールを使って思考の過程や結果を可視化して自分の考えを広げたりした。また，研究（その３）では，表現する際にタブレットＰＣを活用して小集団や全体にプレゼンテーションさせ，情報の共有化や思考の深化を図った。

(Ⅲ)　資質・能力が育つ評価の工夫

本質的な問いと永続的な理解を明確に示した上で単元を構成して，それに即したパフォーマンス課題を設定し，何を，どのように，どのような基準で見取るのかをあらかじめ決めることは，目標・指導・評価の一体化を図る上で有効であった。また，リアルな文脈を設定することで，生徒は単元で身に付けた知識や技能，概念等を実社会と結び付けようとしたり，よりよい社会を志向する意識を高めたりするなど，持続可能な社会を支える資質・能力の育成の観点からも有効であった。